

令和3年12月実施

事業所名 和こう

		チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	29.4%	29.4%	41.2%	・利用定員には達していないが、部屋に対して子どもの人数が多く感じる。児が1カ所に集まると、引っ掻きや噛みつき等のトラブルが予想されるため、各クラスで活動を少人数で行うなどの工夫を行っている
	2	職員の配置数は適切であるか	29.4%	35.3%	35.3%	・子ども同士の噛みつきや引っ掻き等のトラブルを防ぐために、見守りは十分に行っているが、止められない時がある。スタッフの人数配置が少なくなる時は、他部署からの応援を依頼し、トラブル無く安全に過ごすことができるようにしている
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	76.5%	5.9%	17.7%	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	94.1%	0.0%	5.9%	・子どものニーズに合わせて、玩具や環境設定に配慮を行い、集団療育ではなく、個に合わせた関わりを行っている
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	41.2%	11.8%	47.1%	・PDCAサイクルを行っているが、職員に対する周知が不十分だったため、改めて職員間で周知を行い、職員が広く参画することができる環境作りを行っている
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	64.7%	11.8%	23.5%	・業務改善につなげているが、職員に対する周知が不十分だったため、評価表の意見・意向を踏まえて、どのような点で業務の改善を行えるか、確認をする機会を設ける
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等に公開しているか	47.1%	0.0%	52.9%	・公開はしているが、職員に対しての周知ができていなかったため、改めて全職員に対して周知を行い、次年度の支援の向上等につなげていく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	41.2%	5.9%	52.9%	・第三者による外部評価を行っていないことを周知できていない。第三者による外部評価の仕組みを知り、今後取り組みが必要かどうかを確認していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	58.8%	5.9%	35.3%	・感染症拡大予防のため、全員が集合しての研修は控えているが、リモート研修など工夫をし研修機会を設けている。また、研修に参加していない職員に対し、伝達講習等を行い、職員の資質の向上を目的としている

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもの保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	64.7%	11.8%	23.5%	・面談時にアセスメントし、支援計画の見直しを行っている
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	17.7%	23.5%	58.8%	・アセスメントツールを使用し計画を立てているが、より細かく丁寧な支援を実施する為のツールを作成中である
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	52.9%	5.9%	41.2%	・児童発達支援計画を作成する際には、ガイドラインに沿って作成しているが、計画書に各項目を表示できていないため、今後様式等を検討する
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	58.8%	11.8%	29.4%	・担当児以外の利用児の支援計画の確認を全職員で改めて行い、計画に沿った支援が行えているか見直しをする機会を設ける
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	52.9%	17.7%	29.4%	・出勤時間が合わない職員に対し、打合せが不十分になる時があるため、伝達や報告をする機会を工夫していく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	58.8%	11.8%	29.4%	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	64.7%	11.8%	23.5%	
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	76.5%	0.0%	23.5%	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	58.8%	0.0%	41.2%	・支援の振り返りや気づきの共有は行っているが、職員の勤務時間が合わず振り返りへの参加が難しいことがあるため、新たに意見交換を行う機会を作り、次回の支援につなげられるよう工夫していく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	70.6%	5.9%	23.5%	・日々記録している内容から、支援の検証・改善につなげているが、全職員まで周知できていない。周知する機会を工夫していく
20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	64.7%	11.8%	23.5%	・定期的にクラス職員、職員全体で見直しをする機会を設けているので、見直し時期についてもその都度判断できるようにしていく	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	70.6%	0.0%	29.4%	・その児をよく知る担当者が会議に参加している。また、担当者会議に参加していない職員に対し、情報共有を行っている	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	52.9%	5.9%	41.9%	・関係機関と連携した支援を行っているが、職員に対しての周知が十分に行えていないため、職員間での共有を行っていく	

関係機関や保護者との連携

23	(医療的ケアは必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	52.9%	5.9%	41.2%	<ul style="list-style-type: none"> 各機関と連携した支援内容を検討しているが、職員に対しての周知が十分に行えていないため、統一された支援を行っていくために、連携した支援内容の共有を職員間で行っていく
24	(医療的ケアは必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	52.9%	0.0%	47.1%	<ul style="list-style-type: none"> 連絡体制を整えて支援を行っている。どのような連絡体制が整えられているのか、把握していない職員に対し、周知を行う機会を改めて設けていく
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	82.4%	0.0%	17.7%	
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	47.1%	17.7%	35.3%	<ul style="list-style-type: none"> 支援内容等の情報共有は行っている。どのような形で情報共有や相互理解をする機会が設けられているか、把握していない職員に対して改めて周知をする
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	41.2%	11.8%	47.1%	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの機会は設けているが、研修を受ける機会は不十分なため、今後積極的に設けていきたい
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	11.8%	52.9%	35.3%	<ul style="list-style-type: none"> 感染症拡大予防のため、実施できていないが、交流する機会は積極的に設けていきたい
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	11.8%	35.3%	52.9%	<ul style="list-style-type: none"> 参加している職員はいるが、参加報告が不十分であることがわかった。今後、報告機会を設け周知していく
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	82.4%	0.0%	17.7%	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	29.4%	11.8%	58.8%	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での困りごとを共有し、児の行動を肯定的に捉え、お互いがストレスを感じない対応を考えている ペアレントトレーニング研修受講など、職員のスキルアップを図っている
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	52.9%	0.0%	47.1%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者には説明を十分に行っているが、職員には行えていなかったため、改めて職員に周知する機会を設ける
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	64.7%	0.0%	35.3%	<ul style="list-style-type: none"> 児童支援計画に対し、保護者からの同意を得ている。また、どのように保護者に説明を行い同意を得ているのか、面談に参加していない職員に対し、周知の機会を設けていく

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	76.5%	0.0%	23.5%	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	52.9%	5.9%	41.2%	・保護者会を開催しているが、その活動内容について職員に十分に周知できていなかった
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応しているか	70.6%	0.0%	29.4%	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	52.9%	5.9%	41.2%	・定期的に会報や行事予定、様々な情報等の発信を行っており、事業所内にも掲示しているので、職員に再度周知する
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	82.4%	0.0%	17.7%	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	64.7%	0.0%	35.3%	・和こう利用時の子どもの様子を分かりやすく伝えられるように、連絡帳には写真と文章で伝達している
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っているか	5.9%	23.5%	70.6%	・感染症拡大予防のため現在は行えていないが、過去にどのような形で行事が開催されていたか、把握していない職員に対して周知の機会を改めて設けていく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	47.1%	23.5%	29.4%	・マニュアルは作成したが、実際に児を対象にした訓練は、感染症拡大予防のため十分に行えていない
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っているか	47.1%	29.4%	23.5%	・防災意識向上にむけて、職員同士で話しあいを行う機会を設けることができたが、感染症拡大予防のため、定期的に避難等の訓練は行えていない。感染症拡大に留意しながら、避難訓練等の今後の在り方を検討していきたい
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	82.4%	5.9%	11.8%	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100.0%	0.0%	0.0%	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	94.1%	0.0%	5.9%	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	76.5%	0.0%	23.5%	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	70.6%	0.0%	29.4%	・必要だと思われる場合は、事前に保護者と相談し支援計画に記載、保護者の了承を得てから実施することとなっている

アンケート配布人数 17 人 回収人数 17 人 回収率 100 %

《 今年度の振り返りと評価 》

①集団活動における個別支援の充実を図ります

毎月クラスごとにアセスメントを行い、子どもへのかかわり方や、支援目標が適切であるか等検討会を実施しました。全職員での参加機会が少なかつたため、次年度は全体で取り組んでいけるよう工夫していきます。

②専門性を活かした療育提供、家族支援の充実を図ります

研修会への参加や、療育教材の使い方の事例検討を行う等、個別指導についても意欲的に学習する機会を設けました。しかし、子ども同士のトラブルへの対応に結果が出ない状況があり、環境設定の工夫や見守りの強化等の課題も多く挙がりました。

専門性を活かすための取り組みとして、アセスメントツールの使用方法について見直しやツールの改善を行いました。他、家族支援については、より丁寧な説明が必要であったと課題を挙げ、今後、家庭支援への取り組みを強化し、ペアレントトレーニングを中心に展開していきます。

③避難訓練に向けて取り組みを継続します

今年度も密な状況になることを防ぐため、例年通りの避難訓練は行えませんでした。しかし、療育の中で、一か所に集まって職員の話聞くなどの機会を設け、有事への対応を意識した取り組みを行いました。また、防災食作りや、自主的に防災研修を開く等職員間の防災意識を向上させ、その取り組みについての周知として「ぴうぱ防災新聞」の発行も行いました。

《 今後に向けての改善目標 》

①感染対策を徹底し、療育内容を充実させていきます

コロナ禍でも子ども達が主体的に生き生きと過ごせるよう、安全かつ、きめの細かいサポートを実践し、より具体的に可視化された環境設定を工夫します。また、療育内容を連絡帳でお伝えすることが不十分な場合は、電話や面談を重ね、タイムリーにお子様の成長・発達を共有していきます。

②家族支援の向上と全職員での情報共有に努めます

「家族支援」「ペアレントトレーニング」等、保護者の困りごとに迅速に対応し、アセスメントツール活用により明確な療育目標の設定・療育の実践を行います。また、その進捗状況を子どもに関わる全職員が共有できるよう定期的にミーティングを行い、把握の状況を確認していきます。

③防災意識を高め、避難訓練を周知していきます

各種災害等において、いろいろな場面を想定した訓練や話し合いを継続し、準備物の確認、保護者への連絡方法等、より具体的なマニュアル作りを進めます。また、通所全体で「防災新聞」を定期的に発行し、防災に対しての実践と取り組みについて保護者と共有していきます。